

令和5年度 延岡市立南中学校 学校評価書

南中学校区のめざす子ども像
 礼儀・行動・思いやり
 進んであいさつできる子ども 自ら考え、行動できる子ども 誰にでも優しくできる子ども

南中学校のめざす生徒像
 主体的に学習に取り組むことができる生徒 自他を認め合い思いやりと感謝の心をもつ生徒 自ら考え判断し行動できる生徒

南中学校学校経営ビジョン
 校訓「創造・感謝・共生」を基調とし、家庭や地域との連携を強化するとともに、学習指導、生徒指導の充実を図り、活気にあふれ、地域に誇れる学校づくりに努める。

南中学校の教育目標
 【み】未来を創り 【な】何事にも感謝の心もち 【み】認め合い高め合える生徒の育成

A：十分に達成されている B：ある程度達成されている C：課題が多い

No	項目	自己評価	学校運営協議会委員より
1	生徒は楽しく学校に通っている	教職員と生徒・保護者との認識のずれが見られる。生徒の約18%があてはまらないと回答していることが気になる。生徒は昼休み時間等に仲良く話したり、外で遊んだりする様子がよく見られる。校内における生活は良好であると思われるが、地域の方と生徒との触れ合いの場は、登下校時の様子（挨拶を含む生徒の様子）などが主であり、そういった場の少なさが評価の違いにつながったと考えられる。参観日を含む各行事について、ぜひ生徒の様子を見ていただいたり、ボランティア活動等、一緒に触れ合う機会を設けたりすることにより、生徒の活動の様子を見ていただきたい。	B <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が思春期で揺れ動く思いが大きくアンケートに出ているのでは？と思う。 ・生徒の様子を見ていただくための設定の工夫も必要である。 ・登下校中の生徒の笑顔は多いように感じる。 ・生徒に企画させて地域の方を行事に参加できる機会をつくってはどうか。保護者や地域の方が参加しやすい土・日の設定が必要だと思う。
2	生徒は思いやりや豊かな人間関係を大切にしている	生徒・保護者の25～30%はよくあてはまると思っているが、地域住民、教職員からよくあてはまるという回答はなかった。学校生活やSNSにおける心ない発言や行動が起きていることから、このような結果が出たのではないかとと思われる。家庭・地域・学校が一体となった心の教育の在り方について考え実践していく必要がある。	B <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを介したトラブルは以前から生徒間で起きていることと思う。また、巧妙になってきているので、SNS教育（偽サイトなど）は必要かと思う。 ・道徳の時間、学校全体における取組についても発信し、学校・地域・家庭がそれぞれの責任を果たせるようにしていきたい。

3	生徒は自分から進んであいさつができる	生徒・保護者の評価は80%程度と良好であるが、地域住民・教職員は60%以下と差が見られる。教職員からのあいさつには、返答する様子は見られるが、進んであいさつすることや元気よくあいさつすることについては、十分にできていないと感じるところがある。学校において朝の会・帰りの会のあいさつ指導や各教科、学級活動においても積極的にあいさつをすることを伝えるなど、自分から進んであいさつができる生徒の育成を目指したい。	B ・あいさつは社会人になってから大変重要であると思う。長い目で見た時に学校だけではなく、生活していく上で重要であることを引き続き指導をお願いしたい。 ・今後とも継続した指導をお願いしたい。 ・少なくとも自分が住んでいる地域の生徒はよくあいさつをする状況がある。 ・あいさつができていない生徒が多いができていない生徒もいる。部活動生はあいさつができていないように思う。
4	生徒は行事に意欲的に取り組んでいる	生徒・保護者・教職員ともに成果が見られたと判断している。今後、地域の方に見てもらえる機会を増やし情報を発信していく必要がある。また地域との協働活動ができるとよいと考える。	A ・生徒主体の行事が増えてくるといい。 ・保護者に生徒の姿・頑張りを見てもらうためには、学校行事を土・日などに設定してほしい。 ・文化発表会など平日ではなく、土・日など保護者や地域の方にも参観しやすい日程を考えてはどうでしょうか。
5	生徒は授業を真剣に受けている	授業を真剣に受けていると捉えている生徒や保護者が多くいるのに対して、教職員がそのように捉えている割合が少なく、生徒・保護者と教職員との認識のずれが見られる。定期的に生徒に授業に対する振り返りを行い把握するとともに、教員も相互参観を行い、他の方から授業の様子を見てもらって振り返る必要がある。	B ・授業参観週間が必要である。 ・どのような生徒の状況をめざしているのか共有できるとずれは減るのではないかと。 ・保護者とは別日程で地域の方々（区長・民生委員等）を招いた参観授業を設けて観てもらおうと面白いのではないかと。
6	生徒は十分な時間をとって家庭学習に取り組んでいる	家庭学習に十分な時間をとって取り組んでいると考える生徒や保護者は約60%であるが、教職員は約40%にとどまっており、十分ではないと考えている。教員はどの生徒が十分ではないと把握できていると思われるので、教育相談等を通して、該当生徒に具体的な家庭学習の取り組み方などを教えていく必要がある。	C ・家庭との連絡を密にして取り組ませるといいと思う。 ・保護者とは別日程で地域の方々（区長・民生委員等）を招いた参観授業を設けて観てもらおうと面白いのではないかと。 ・何が問題なのか？リアルタイムに共有し向かうべき方向に努力していく必要があるのではないかと。 ・家庭環境を考慮し取組方法を生徒に話すなどしていつてはどうか。
7	学校は生徒の意欲・関心を高める授業づくりを実践している	生徒・教職員ともに80%以上がそう思うと考えているが、保護者は50%にとどまっており、わからないと回答した割合が20%であった。学級通信や懇談会等で授業の様子を知らせていく必要がある。	B ・保護者とは別日程で地域の方々（区長・民生委員等）を招いた参観授業を設けて観てもらおうと面白いのではないかと。

8	学校は進路情報を提供し、進路意識を高める工夫をしている	3年生を中心に学級通信や懇談会で情報提供を行っているが、1・2年生に対しては十分ではなかったように思う。全学年を通して早めに最新の情報を積極的に行うようにしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前の生活に戻りつつあるので、早く以前の状態に戻して、進路に役立つ説明会などを企画したり、高校側と連携した交流の場を設けたりしてはどうだろうか。 ・単なる進路情報だけでなく、キャリア教育の充実が望まれる。
9	学校は学習をする環境を整え、学級設営等に配慮している	ほとんどの教職員は学習環境が整っていると捉えているが、生徒・保護者は約70%であり認識に差が見られる。今後、生徒の意見を収集し、生徒の意見を取り入れながら充実した環境づくりをしていく必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境は人をつくると言われているように、生徒とともに常に学習環境づくりには取り組んでいてもらいたい。
10	生徒は身の回りの整理整頓や時間を守った行動ができています	学校内においては、生徒・教職員ともに良好であると考えられる。ただ、家庭内において、保護者の評価が70%弱にとどまっており差がみられる。家庭内における整理整頓や時間を守った行動が十分でないことが考えられる。今後も学校と家庭の取組が連携されたものとなるように、生徒への啓発も考えたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ることは信用・信頼を得る行動で、誰でもできることと私は思う。引き続き指導をお願いしたい。 ・物を大切に扱えない様子が時折見られる。大切に扱う心の育成も必要かと思う。
11	生徒は交通ルールやマナーを守って安全に登校している	生徒・保護者・地域住民の評価は良好であるが、教職員の評価は70%程度と差がみられる。歩道の通行において、広がり歩きをしており、地域の方から指導を受けたり、交差点の横断歩道の渡り方が遅く、運転される方から苦情を受けたりすることが少なくない。今後も生徒・保護者には交通ルールやマナーについての啓発を続け、事故の未然防止に向けた取組を徹底したい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時のマナーが気になる。自転車での通学時に車と接触しそうなことを見かけた。 ・登校よりも下校時のマナーが悪い。たまに固まって遅くまで話し込んでいる姿を見かける。 ・交通ルールは自分の命を守る大切な行動であることを伝え続けることが大切である。
12	生徒は道徳教育を通して規範意識が育っている	あまりあてはまらないの項目において、生徒・保護者と教職員・地域住民との間に差が見られる。この規範意識の差をどのように改善していくかが大事である。特に保護者への情報発信と意識レベルを合わせるための取組が必要であると考えられる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・まさに保護者への情報発信と意識レベルを合わせるための取組が必要である。 ・「なぜ」ということをきちんと話していくことも重要である。

13	学校は人権意識の向上を目指して十分な指導を行っている	教職員と生徒・保護者との認識のずれが見られる。教職員は普段から生徒の言動にアンテナを張って指導しているが、生徒・保護者は学期1回の人権学習以外での指導が十分でないと感じていたり、人権に関する啓発がたりないと感じていたりしていることが考えられる。生徒への人権学習の内容の選択と保護者への学校からの情報提供が課題である。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に重要な項目である。職員研修だけでなく、家庭教育学級での充実も図ってみてはどうか。 ・保護者全体への学習や講演会等の機会などをもっとアピールした方がいいのではないかな。
14	学校は一人一人の声を大切にしている	保護者と教職員との差が気になる。生徒の頑張りや成長が見られた時に積極的な情報提供ができているかを振り返る必要がある。どうしても問題行動等で連絡することが多くなりがちであるため、生徒へのアプローチの仕方を変えていくことで子どもから親への伝わる内容や会話の数も増えるのではないだろうか考える。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学校で一日一回は先生から声かけられるようにしていただきたい。
15	学校は組織的に生徒指導にあたる体制ができています	生徒・保護者・地域住民と教職員について差がみられる。学校内の組織の在り方について分かりにくいところが原因であると考えられる。生徒間のトラブル等においては、各学年の学年生徒指導を中心に指導を進め、対応事例については、隔週で実施される生徒指導委員会で情報共有がなされ、職員会議においても全職員に共通理解を図ることができている。今後も共通理解・共通実践を意識しながら、積極的な生徒指導を展開できるようにしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は学校だけではなく、地域・家庭が一つになる必要がある。 ・コミュニティ・スクールの充実を図っていく必要がある。
16	生徒は自主性が育っている	学校での様子と家庭での様子の違いが保護者との認識の差として表れていると考える。生徒の学校での頑張りをもっと発信し、そのことをきっかけとして家庭でも頼りにするような働きかけをするなど、学校と保護者が連携を図られるようにしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、コミュニケーションが社会全体を含め、低下していると思う。 ・生徒の学校での頑張りや家庭に発信し、それをきっかけに家庭で働きかけをするなど、学校と保護者との連携が図られるようにするとよい。
17	生徒は部活動などで体力がついてきている	教職員の13%、生徒の16%、保護者の21%がついていないと感じている。体力向上プランにおいて生徒の実態に応じた具体的な計画を立て取り組んでいきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の活動状況はどのようになっているのだろうか。

18	生徒は災害から身を守る防災意識が育っている	生徒の約80%が育っていると回答していることはうれしい。特に本年度はセーフティプロモーションスクール認証に向けて取り組んだこともあるのではないだろうか。また第1学年では防災アドバイザーによる防災学習がとてもためになったと生徒の感想からも多く出てきていた。地域と同時に避難訓練は行ったが、今後は地域とともに防災について考えたり、訓練をしたりすることも考えていきたい。また、学校における3日間以上の避難用具の設置等も検討していき、教職員も含め防災意識を高めていきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内だけでなく、通学時、部活動時の訓練もやってはどうか。様々な状況下での訓練やシミュレーションなど地域（校区）での一斉訓練を南小や緑ヶ丘小を含め、地域で行う計画を考えてみてはどうか。 ・思いもよらない時に災害に遭うものだと思うので、常に考えて行動していけるように生徒に考えさせる指導（機会）を与えてほしい。 ・防災・減災の取組は常に意識をしていかないといけないので引き続き指導をお願いしたい。 ・校内だけの防災活動・教育では対応できないことも多い。連携した活動をしていくことが必要である。
19	学校はいじめや不登校を出さない取組を行っている	生徒・教職員と保護者・地域住民との間に差がみられる。学校においては、毎月のいじめに関するアンケート実施や学期毎における教育相談、また日頃から日記等の記述や昼休みの教室等の見守りなど、生徒一人一人の様子について細やかな指導を続けている。生徒・教職員ともに90%以上が「あてはまる」と回答しており、取組の効果がみられる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは絶対に許さないという雰囲気づくりをしていてもらいたい。小さいいじめと思っていても生徒はかなり悩んでいる場合もある。いじめは早急にそして丁寧に対応をしていてもらいたい。
20	生徒はスマートフォンやSNSをルールを守って利用している	生徒・教職員と保護者・地域住民の間に差が見られる。スマートフォンの所持率は年々上がってきているが、学校における使用の在り方についての啓発もかなり進んでいる。ただ、家庭や地域における使用状況については学校では見えない部分があり、そこが差になって表れていると考えられる。SNSトラブルによる人間関係のもつれもゼロではないため、今後も学校と家庭が連携した情報モラル教育の在り方や利用における啓発等が必要である。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・買って与えているのは保護者であるので、保護者側のモラルの向上が必要である。 ・SNSを介したトラブルは以前から生徒間で起きていることと思う。また、巧妙になってきているので、SNS教育（偽サイトなど）は必要かと思う。
21	生徒は学校や学級からの通信を必ず保護者にみせている	生徒、保護者、教職員ともにほぼ認識が同じである。あてはまらないと回答している割合は生徒よりも保護者、さらに教職員と高くなっていることから、生徒が見せる意識をもつための声かけや家庭での子どもへの声かけなどの対策をとっていきながら、あてはまると回答する割合が100%になるようにしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子はどんどん発信していてもらいたい。

22	学校は保護者からの問合せに対して誠実に対応している	教職員と生徒・保護者との大きな認識のずれが見られる。保護者より、生徒のあてはまらないと回答した割合が多いのには驚いた。保護者からの問い合わせに対しては、これからも誠実に丁寧に聞き取り、わかりやすく、納得のいく返答ができることを心がけていきたい。	B	・今後もそのように対応をお願いしたい。
23	学校は保護者や地域にホームページや通信等で積極的に情報を発信している	保護者の約12%があてはまらないと回答していることから、まだまだ情報提供がたりていなく、学校の様子等がわからないという思いから回答してるものと考えられる。	B	・学校での様子はどんどん発信していただきたい。